

第42回

全国中学生人権作文コンテスト  
熊本県大会入賞作文集



主催 熊本地方法務局・熊本県人権擁護委員連合会

共催 熊本日日新聞社

後援 熊本県教育委員会 熊本市教育委員会 NHK熊本放送局 ロアッソ熊本

# 挿絵について

## プロフィール

野田 竜太郎 (マリオネット作家、画家)

- 1999 九州産業大学芸術学部 卒業
- 2005 画家として作家活動始める
- 2019 マリオネットの制作を始める



## 主な展覧会

- 2011 「日々のカタチ」(個展、山鹿市)
- 2012 「見えないカタチ」(個展、熊本市)
- 2012 「アーティスト・インデックス scene2」  
(企画展、熊本市現代美術館)
- 2015 「野田竜太郎展」(個展、群馬県桐生市)
- 2016 「愛すべき怪物たち」(個展、熊本市)
- 2017 「絵画から始まる物語」(個展、熊本市)
- 2014-2020 四つ葉展(グループ展、福岡市)
- 2006-2023 パンゲア。展(グループ展、熊本市)
- 2022 マリオネット展(二人展、熊本市)
- 2023 四つ葉展(グループ展、山鹿市)



**第42回全国中学生人権作文コンテスト熊本県大会表彰式**  
令和5年12月9日（土）市民会館シアター・夢ホール大会議室

# は し が き

法務省と全国人権擁護委員連合会は、人権尊重思想の普及・高揚を図る人権啓発活動の一環として、昭和五六年から、全国の中学生を対象として人権作文コンテストを実施しており、本年度、第四二回大会を迎えました。この人権作文コンテストは、人権に関する作文を書くことを通じ、次代を担う中学生に、人権尊重の重要性、必要性についての理解を深めてもらうとともに、豊かな人権感覚を身に付けてもらい、あわせて、入賞作品を周知広報することによって、広く一般人に人権尊重思想を根付かせることを目的として実施しているものです。

この目的に沿って、熊本地方法務局と熊本県人権擁護委員連合会では、本年度も各関係機関の御協力を得て熊本県大会を実施したところ、県内一五〇校から、二五、五六三編の作品の応募がありました。

本年度の応募作品は、高齢の家族や障がいのある家族に対する人権問題をテーマとする作品のほか、性的マイノリティに関する人権問題を取り上げた作品など、作者一人一人が日常生活において、人権を尊重し、相手思いやる心や寄り添う心を持って過ごしている様子が、ひしひしと伝わってきました。

いずれの作品も、家庭や学校における日常生活の中から、自らの体験や思いを通じて、お互いの存在や価値感を認め合い、違いを理解すること、そして相手の立場に立つて行動することや思いやりを持って接することの大切さについて、中学生ならではの視点と感受性をもって、十分に理解していることが感じられる内容で、大人の私たちも深く感銘を受けるものでした。

本年度も、熊本県大会の入賞作文のうち、一二編を作文集として編集しましたが、掲載された各作品は、同世代の中学生の皆様だけでなく、多くの県民の皆様にも感動をお伝えするものになると思いますので、より多くの方々に読んでいただき、今日の中学生の素直で豊かな人権感覚に触れることにより、人権尊重思想の更なる普及・高揚へつなげることを願っております。

おわりに、本コンテストに応募していただいた中学生の皆さんを始め、深い御理解と多大な御協力を賜りました各中学校、共催いただいた熊本日日新聞社、後援いただいた熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、NHK熊本放送局及び株式会社アスリートクラブ熊本（ロアツソ熊本）の皆様方に心から感謝申し上げます。

令和六年一月

熊本地方法務局長 豊田英一  
熊本県人権擁護委員会会長 野口泰喜

## 【審査員】

熊本日日新聞社編集局地域報道本部社会担当部次長

熊本県教育庁市町村教育局人権同和教育課審議員

NHK熊本放送局コンテンツセンター長

株式会社アスリートクラブ熊本ホームタウン推進部部长

熊本県人権擁護委員連合会长

同連合会こども人権委員長

同連合会男女共同参画委員長（代理）

同連合会高齢者・障がい者人権委員長

同連合会事務局長

同連合会企画担当委員

熊本地方法務局次長

（順不同敬称略）

渡邊 哲也

角田 賢治

田中 晋

古賀 亮

野口 泰喜

緒方 良行

陶山 えつ子

牛嶋 たけ子

飯田 精三

村上 裕美子

前野 政彦



## 【目次】

### 最優秀賞

ずっとと言えなかつたこと	.....	玉名市立岱明中学校	二年	猿本 輝凜	1
普通とはなんだと思いますか？	.....	熊本県立玉名高等学校附属中学校	三年	坂本 史子	4

### 審査員特別賞

祖父が教えてくれたこと	.....	玉名市立岱明中学校	二年	徳山 瑛太	8
曾祖母から学ぶ	.....	天草市立本渡中学校	一年	川上 雫	12
少し遠くから見て	.....	熊本市立藤園中学校	二年	平野 耀	16
人を想う	.....	湯前町立湯前中学校	一年	岩野 一花	20

## 優秀賞

容姿の偏見について感じたこと	……	菊陽町立菊陽中学校	三年	下瀬	莉子	24
『一瞬の判断』で差別をしないために	……	八代市立第八中学校	二年	春崎	菜々子	27
自分らしく	……	天草市立天草中学校	三年	森	百江	31
思いやり	……	宇土市立鶴城中学校	三年	井本	莉未	35
弟がくれたもの	……	合志市立合志楓の森中学校	三年	安東	美波	38
負った心の傷の深さと小さな幸せ	……	熊本県立八代中学校	一年	澤村	実空	41



【最優秀賞・熊本地方法務局長賞】

ずっと言えなかったこと

玉名市立岱明中学校 二年 猿本ざるもと 輝凜きりりん

私は、中学二年生になって乗り越えた事が一つあります。

ずっとずっと気にしていたこと。ずっとずっと言えなかったこと。

私には四歳の時に発症した持病があります。それは、自己免疫性肺胞蛋白症という肺の病気です。病気が発症して以降日常生活を送るにあたって、二十四時間の酸素吸入が必要になりました。病気になるまでは何も気にせず全力で走ることも、おもいつきり遊ぶこともできました。しかし、病気になるまで酸素吸入が必要になり、それまでの生活が大きく変わりました。病気が発症後は半年間の入院生活を送りました。そして、その後も入院生活をくり返す日々でした。我慢をしなければいけないことも多く、「お友達に会いたい」「外でおもいつきり遊びたい」といつもいつも思っていました。

退院後、初めて酸素吸入をしながら登園した日は、不安がとてもし大きかったことを今でも鮮明に覚えています。小学校入学の時は、自分の口で病気についてうまく説明ができずに戸惑うことも多



くありました。友達からジロジロ見られているような気がして、とても悲しい気持ちになることもありました。しかし、少しずつ周りの人達が私の病気のことを理解し受け入れて、手助けをしてくれるようになりました。でも、いつも気になるのは人の目でした。「どう思われているのだろう。」と思うとだんだん怖くなり、学校で酸素吸入ができなくなりました。吸呼が苦しくなっても、我慢をする生活を選ぶようになりました。

中学校へは、四つの小学校から入学してきました。そして新しい人達と出会いました。運動制限がある私は、体育の授業を見学していると、「なんで体育せん」と聞かれることが多くなりました。自分で説明することが怖くて、恥ずかしくて黙っている、小学校からの友人が、「肺の病気やけん、体育できんとよ。」と説明してくれました。私はいつどんな時も怖くて自分の口から病気のことを話すことができませんでした。いつも人からどう見られているかずっと気にする日々でした。

中学二年生になり、担任の先生と病気について詳しく話す時間がありました。その中でクラスのみんなに病気について話して、理解してもらおうということになりました。「どう思われるのだろう」という大きな不安と、好奇の目にさらされるのではないかという恐怖がありました。いざ全てを打ちあけるとクラスのみんなは「病気もつとたん。」「きつかったら言つてね。」「酸素重かったら持つよ。」と声をかけてくれました。そして私のことを理解してくれました。打ちあけた時の、あの静寂した空間と、私のことを見るみんなの視線は怖いものではなく、温かくとても優しいものでした。そして私のことを受け入れてもらえた嬉しさと、もつとはやく伝えればよかったという気

持ちになりました。

まだ、学校生活全体では、酸素吸入を使用することに抵抗はあります。しかし、あの瞬間から私の生活は大きく変わりました。あの日、あの時、担任の先生が背中を押してくださったこと、仲間が理解して受け入れてくれたことを今、とても感謝しています。私は自分自身が病気になったことで、弱い立場を知ることができました。辛くて苦しいことをたくさん経験しましたが、学ぶこともたくさんありました。入院生活をする中で様々な病気の人、障がいをもつ人に「何だろう」と思いジロジロ見ていたことがありました。今考えてみると、酸素吸入を使用している私のことをジロジロと見てくる人と同じ目を私自身も誰かにむけていたのだと改めて思いました。誰かと比べることではなく、理解し認め合う世界になれるように私も一歩踏み出そうと思います。今回「ずっとと言えなかったこと」を伝えた事で一つ成長できたと思います。心の重荷がスーと取れたような気がしたあの打ちあけた日と同じように、私も誰かの重荷を受けとめられる人になりたいです。



## 普通とはなんだと思いますか？

熊本県立玉名高等学校附属中学校

三年

坂本

史子

私たちがよく日常会話で口にする「ふつう」とはなにかを考えたことがありますか？私は耳にするたび疑問に思っています。私がなぜこのようなことを疑問に思うのか、きっかけと私が考えている「ふつう」について書こうと思います。

私には九歳離れているかわいい弟がいます。現在六歳で元気に小学校に通っています。ですが地元の小学校には通っていません。家から遠く離れた場所にある支援学校に通っています。なぜかというと、弟には障がいがあるからです。軽度知的障がい、ADHD、自閉スペクトラム症と診断されました。自閉スペクトラム症やADHDにはダウン症等のように決まった特徴がありません。ある子はすぐく内気だけど、別の子はすぐに怒り出してしまふなどタイプが様々なので診断に時間がかかってしまいます。弟に正確な診断がくだされたのは五歳の時でした。ですが、一、二、三歳頃から自閉症の傾向があるとして療育に通っていました。私は当時十一歳でした。弟に障がいがある、そのことを知らされても今と同じで何も思わなかったのを覚えています。

「弟にかわりはないんだし今まで通りでいいんじゃない？」

私はずっとそう思っていました。なので療育施設の方と話している時に言われたことが今でも印象深く残っているのです。

「自分の弟に障がいがあるかわかってもそう思えるあなたはすごいね。」

私はなにがすごいのか今でもわかりません。その出来事があったから「ふつう」とはなにかを深く考えるようになりました。「ふつう」という基準があるから障がい者、健常児の線引きがされ、環境によっては障がい者を生きづらくさせているのです。

私の弟は幸いにも恵まれた環境で育っています。私と同じ幼稚園に通っていましたが、友達がみんな弟のサポートをしてくれるので運動会などの行事も楽しめているようでした。しかしその運動会であってはならないことが起きました。弟より一つ下の男の子も弟のように真剣にやっているけれどルールがわからず困惑し自分のチームに危害を加えてしまったことがありました。その子の友達もまたみんなで力を合わせて頑張っていました。大人は違いました。見ていたお父さんやお母さんたちがザワザワしはじめ、

「あの子なにやってるの？おかしいんじゃない？ふつうじゃないよ。」

と言っていました。たしかに自分のチームに危害をあたえたからそう思うのも無理はないと思います。ただどぶざけてもない、真剣にやっているのに「おかしい」とか「ふつうじゃない」とか、なにを基準にしているの？と思いました。私はとまどいが隠せませんでした。真剣にやっているてもアクシデントはおこるものです。そんなに変な目でみなければいけないようなことなのでしょ

うか。

やはりどこの場所でも「ふつう」という言葉は私たちに付きまとうものです。無意識のうちに「ふつう」「ふつうじゃない」を分けているのです。しかし私は「ふつう」などない。みんな一人一人が特別である」と考えています。基準なんてないはずで、障がいがある子、ない子、その差なんて一ミリも本当はないんです。そう教えてくれたのも弟でした。弟は物造りの才能があります。説明書にもものついていないものを造りだし、恐竜や、植物などを造って見せてくれます。私やお母さん、お父さんにもそんな才能や技術はありません。苦手なことを克服するのに少し時間がかかってしまっただけで得意なことは誰よりも得意。みなさんも得意、不得意は少なからずあるはず。不得意なことは周りの支えや助けを



借りながら一つずつ前に進んできたのではないでしょう。それと同じなんです。決して私たちと違うようなところは一つもないんです。

私は障がいがある、ないにかかわらずみんな仲良くして暖かい社会を築きあげたいです。学生である私が、思う存分に自分の思っていることを書けるのがこの作文です。偏見やいじめ、差別などは完全になくすることはできないかもしれませんが。ですが一人一人が特別であっていいこと、世界でたった一人の自分、みんなであるということを忘れなければ少なくともなっていくのではないのでしょうか。みなさんも今一度考えてみてください。みんなが助け合い、支え合い、認め合い、輝き合って温かく生きやすい時代をつくるために。

## 祖父が教えてくれたこと

玉名市立岱明中学校 二年

徳山

瑛太

「おじいちゃんがない。」

冬の寒い夜だった。夕食を持っていった母が血相を変え飛び込んで来た。

僕の祖父は五十代の頃からパーキンソン病を患っていて、八十代になつてからは一人で歩くのも食事するのも困難になつていた。一昨年の冬、祖母が入院していた時、祖父が突然いなくなつた。

「おじいちゃんの上着おいてある。歩行器がないけん外かもしれん。」

「えっ外。もう暗いよ。」

僕はとても危険だと思つた。祖父は黒っぽいシャツとズボンで上着を着ておらず、真冬の夜道を歩行器で歩いているのだ。最後に姿を見てからもう一時間位たつている。

「はよ探さなん。」

僕は姉と、母は飼犬と、二手に分かれて連絡をとりながら探し始めた。

ハアハアはく息が白く、懐中電灯を持つ手が冷えて痛い。一、二メートル先は真つ暗で何も見えな

い。一時間近く探しても見つからず、もう警察に連絡しようと言って家に帰ると、祖父が玄関の前  
にいて、

「だーれもおらん、どこさん行ったとかい。」と言った。僕はほつとしたと同時に、少し怒りが込  
み上げてきた。どうして祖父はこんな長い時間、黙っていなくなったりしたんだろう。皆がどれだ  
け心配するか分からなかったのか、と思った。

祖父は認知症ではない。ただ若い頃からとても頑固で、こうと決めたら動かずにはいられない性  
格だったようだ。体が思うように動いていた時はそれでも良かったのだが、他人の手を借りないと  
何でも思うように出来なくなつてからは、イライラして当たつたり、自分勝手な行動が増えていっ  
た。歩行器を使つてもよく転ぶのに、自転車に乗れると言つて持ち出そうとして転び、何針もぬう  
けがをしたり、夜中にどうしても家にはい物を食べたいと幼い子供のようなことを言つたりするよ  
うになった。一時期、高齢者の施設に入ったこともあったが、そこでも同じようなことの繰り返し  
で、結局また家に戻つて来た。今はデイサービスやリハビリやショートステイ等を利用している  
が、祖父はあまり行きたがらない。僕はどうしてなのか考えてみた。

高齢者施設にも様々な特色があり、利用者に合う、合わないがあるようだ。施設に来る高齢者の  
方々も、体が不自由、認知症、持病があるなど様々で、コミュニケーションをとるのも大変な場合  
がある。僕の祖父は耳が遠く、大きな声で何度も言わないと聞こえない。また、持病のためロレツ  
が回らず、何を言っているのか聞きとれない。何度聞いても分からない時もあり、会話するだけ  
でもとても苦勞する。そんなこともあつて、僕はだんだん祖父としゃべらなくなつていった。で



ももし僕が祖父の立場になったらどうだろう。体が不自由になり、やりたい事が出来なくなり、話しても分かってもらえず、人が話しかけても聞こえず、誰からもかまってもらえなくなったら……僕もきつと祖父のようにイラついて当たったりするかもしれない。祖父が施設に行きたがらないのは、家にいたら何を言っているのか分かってくれる祖母がいて、我がままも受け入れてもらえるけど、施設では他人とコミュニケーションもとれないし、自分勝手も受け入れてもらえないからだろう。

ところが、そんな祖父がある施設に行った時、全く問題行動を起こさず穏やかに過ごしたと聞いた。その施設では、まず祖父に何が好きかを聞いて、畑仕事が好きと言うと、思いっきり畑仕事をさ



せてくれたそうだ。大雨の時も祖父は畑に行きたがるのだが、そんな時は、昔やっていた木彫の作品を見せてもらい、

「すばらしい作品ですね、この図案をコピーしますので色をぬって下さいませんか。」

と言うと、祖父は熱心に色をぬったそうだ。その施設では、祖父の好きなことを知ろうとし、意志を尊重し、特技を尊敬してくれた。

そう言えば、祖父が勝手にいなくなったあの日、祖父はどこに行っていたのかというと、だいぶ離れた畑に行っていたのだ。そこに植わっていた白菜を僕達に食べさせようと、何時間もかけて歩行器で歩いて行ったのだ。途中で疲れて何度も休み、鎌を落としたことに気付いて取りに帰ったりしているうちに日が暮れてしまい、帰り着くのに二時間以上もかかってしまったということだった。僕が自分勝手だと思っていた祖父の行動は、僕達に白菜を食べさせたい、誰かのために何かしたいという気持ちからの行動だった。

その人を分かるうとすること、その人を尊重すること、その人の立場になつて考えてみることで、物の見方や接し方が変わってくるのではないだろうか。僕は祖父にそう教えてもらった気がする。

【審査員特別賞・熊本県教育委員会賞】

曾祖母から学ぶ

天草市立本渡中学校 一年

川上<sup>かわかみ</sup>

雫<sup>しずく</sup>

人権とは「人が人として社会の中で自由に考え、自由に行動し、幸福に暮らせる権利」のことだと授業で学んだ。それに、虐待や虐殺、人身売買、いじめ、差別など様々な人権問題が世の中にはあふれているのだとも。だけど憲法にも「基本的人権の尊重」がうたわれているのに、私はしっかりと考えたことはなかった。なぜなら、どこか他人事で遠い世界での話のように感じていたからだ。「私自身」が当たり前の権利を主張できない、「私」が認めてもらえない理不尽な世界。想像もつかない。「人権」という大きな問題を前に私は今後どう行動していったらいいのだろうか。

夏休みは、母の実家で過ごす時間が多い。ここには私の大好きな曾祖母も一緒に住んでいる。来年で百歳になる。前に比べると、一つ一つの動作もゆっくりで、トイレまで十メートルもない距離を、畳の上をはって動き、土間では伝え歩きでトイレに向かう。二十分以上かかる上、認知症もあるので、途中トイレに行くのを忘れて止まってしまう。だから「ひいばあば、こっち。トイレこちよ。」と声をかけるのも一度や二度ではない。そのたびに曾祖母は、ああそうかという表情で

「ありがとう。ありがとうね。」

と一息ついてゆつくりと体を起し、また進み始める。でも私は決して、せかしたり手を貸したりはしない。あくまでも、曾祖母自身に頑張ってもらおう。なぜなら、私が曾祖母に縁側で靴をはかせていた時、母から

「全としてあげることがひいばあばのためではないよ。」

と言われたからだ。曾祖母のために良かれと手を貸していた私の行為は、実は日常生活の中で出来る、しゃがんで靴をはくという曾祖母にとつて唯一のリハビリの機会をうばうものだった。高齢で動く範囲も限られている中、自宅で過ごすことのできる体力を維持していくには、曾祖母自身にも頑張ってもらふ必要がある。大変そうだからと安易に手助けすることは、自己満足でしかなかった。

時には移動に疲れた曾祖母の横に私も一緒に座る。私は曾祖母の肩をトントンとしてから口の形がわかるように簡単な単語でゆつくりとしゃべる。そうすると老人性難聴の曾祖母でも、私の口の形を読んでにつこりしながら返事をしてくれる。例え、同じ話を何度されても、平気だ。初めて聞いたみたいに私も返事をする。こののんびりとした時間が私は好きだ。一緒にお風呂に入ることもある。お互いの足がぶつかり合うような湯船の中、向かい合つて二人で入り、曾祖母は私の学校や部活の話をにこにこ聞いている。しばらくしてから、お風呂から上がるよと声をかける。手すりを持つ位置、立ち上がる方向、湯船をまたぐ動作を伝え、かけ湯をしてあげて私は家族を呼ぶ。今や曾祖母を中心に我が家は回っている。でも、それは負担ではない。昔は曾祖母がみんなの面倒を見てくれていた。だから今度は私達の番なのだ。

私や弟がおどけると曾祖母は小さな目をもっと細めて声をあげて笑う。弟が宿題の音読が終わると上手と拍手をしてくれる。私が叱られて泣いていると心配そうにのぞき込み、じっと見つめながら大きくくうなずいてくれる。こんな時、無償で自分を受け入れて認めてくれる曾祖母の存在が、私を勇気づけてくれる。同じように、私も曾祖母にうなずくことがある。それは、曾祖母が自分の持てる力を活かして、頑張った時だ。トイレでズボンをきちんと上げられたり、食事を全部食べられたり、ベッドに上がることが出来るたりなど、挙げればきりが無いほどだ。人からみれば何てことない当たり前の動作でも九十九歳ではそうはいかない。だからOKサインをしながら、私は何度もうなずいてみせる。



そういえば、白寿祝いの時、私は曾祖母に将来の夢は何かとお茶目に聞いたら、

「長生きしてあんたたちの嫁さん姿を見たい。」

と笑顔で答えてくれた。これには家族全員が驚いた。九十九歳でも夢がある。年を重ね不自由な事が増えても明日を語る曾祖母はとても素敵で、長生きするのも悪くないと思えた。

いつか誰もが、人の手助けがないと毎日を元気に送ることさえ難しくなる時が来るだろう。しかし私も通っていく道だ。曾祖母の今は、未来の私の姿でもある。だからこそ、出来ないことで自信をなくしても、まだ出来ることを共に喜んでくれる存在はきつと大きいはずだ。老いを理解し、その人の心に寄り添う。人権問題の直接解決にはならないが、私にとって曾祖母が大切なように、誰にでも大切な人は必ず存在する。その人がいつまでも元気に笑っていられるよう、みんなが少しずつ大切な人のために勇気を出して行動すれば、社会はもっと優しく、そして誰もが幸せな世界になるのではないだろうか。

## 少し遠くから見て

熊本市立藤園中学校 二年 平野<sup>ひらの</sup>耀<sup>よ</sup>

私には三つ年下の弟がいます。弟はダウン症です。ダウン症があると、成長が遅いことが多いです。今は、私が以前通っていた、市立の小学校の支援学級に通っています。

弟と一緒にいる時、私はよく弟のことが心配になります。いじめられていないか、変な目で見られていないか、とても不安です。家での弟は「ハッピーな笑顔で！」が口癖の、明るくて、周囲を自然に笑顔にしてくれる存在です。しかし、時々弟が宿題をしているときに、解いている問題を見て、少しだけ残念に思ってしまう。しょうがないことだし、どうしようもないことだとわかっているのですが、どうしても「普通の子」と比べてしまいます。小学校六年間でかけ算までいけるのだろうか。ひき算もできないまま中学校に行くことになるのではないかと思うと、不安になります。

そんなとき、弟が集団宿泊研修で阿蘇に行くことになりました。弟にとつて、初めて親と離れて過ごす機会です。両親はもちろん、私も心配で、いろいろと弟に注意しました。その研修は、オリ

エンターリングやナイトハイクという班での活動があり、とにかく活動量が多いのです。あまり体力がない弟にはきついのではないか、班のみんなに迷惑をかけてしまうのではないか、と不安が尽きませんでした。弟が出発してからも、家族で心配して過ごしました。そして、二泊三日の集団宿泊が終わり、弟が帰ってきました。幸い、怪我などもなく笑顔で帰ってきて、みんなほつとしました。

そしてしばらくして、研修時の写真を選ぶことになりました。活動ごとに写真が並べられ、楽しそうな写真も多く、安心して眺めていました。

そうしているうちに、弟が座り込んでいる写真を見つけました。班のみんなは困ったように弟を見つめていて、私は申し訳なく思いました。また次には、班のみんなが弟の荷物を持っていく写真がありました。やっぱり迷惑をかけていたんだな、とまたショックを受けました。しかし、なんとその後、弟が班の子におんぶしてもらっている写真が出てきました。母も私も目を丸くして、驚いてしまいました。弟は嬉しそうに、にこにこ。おんぶしてくれている子も含め、班のみんなが、優しく笑ってくれていたのです。母も私も幸せな気持ちになりました。確かに弟は迷惑をかけました。けれども、そんな弟をみんなは優しく受け入れてくれたのです。

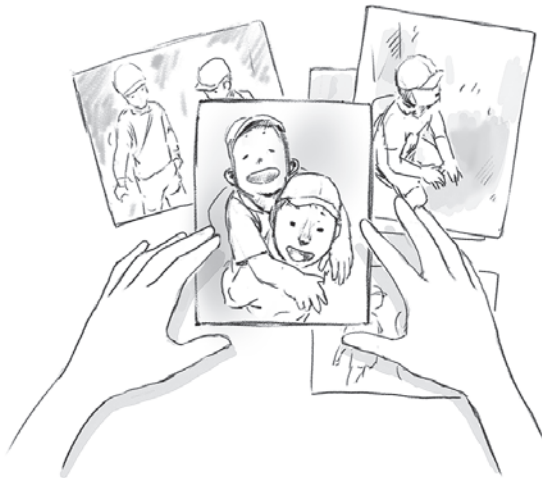
その他にも、いつもはやんちゃな男の子が、弟を支えて歩いてくれている写真もあり、さらに幸せな気持ちで満たされました。班の子達が、できないことがあったり、何かするのに時間がかかってしまう弟を受け入れ、笑って助けてくれたことが何より嬉しかったです。

小学校に入った頃より、同級生との差は広がっている気がして、どうしても私は弟を他の子と比



べてしまいます。ですが、弟は確実に成長していて、周りの子とのコミュニケーション能力も、格段にレベルアップしています。この間、弟が中学校見学に来ました。私は心配しましたが、このときも弟は私の同級生や先生方に話しかけられても、しつかりと挨拶できていたそうです。一番「普通」ということにとらわれて、成長を見れずに、周りの目から守ろうと意識していたのは、姉の私だったのです。そして、私自身が傷つかないようにはしていたのかもしれませんが。

もちろん中には、弟のことを変だといって受け入れてくれない人もいます。以前、そのようなことを言われた経験もあります。ですが弟は今、たくさんの優しい人達に支えられて、少しずつ成長することができているのです。



私が弟の障がいを知ったのは、小学校三年生です。知つてすぐの頃は、障がいだとかは、あまり気にしていませんでした。ですが、大人に近づくにつれて、あれこれ考えすぎていたのかもかもしれません。あの写真には、ゆつくりながらも成長し、頑張っている弟と支えてくれる同級生の姿がありました。私は弟を守ろうと、心配し過ぎて、弟の成長を信じてあげられていなかったのかもかもしれません。しかしそれは、弟の挑戦する気持ちや自立の邪魔になる可能性があります。これからは、少し遠くから、弟の挑戦する姿や頑張る姿を見守りたいと思います。

今の弟が必要としている人は、全てを手助けしてくれる人ではありません。手助けが必要なきには、笑顔で寄り添ってくれる、それが弟にとって一番心強く、頼もしい存在なのではないでしょうか。そのような人がこの社会に増えてくれることが、弟や他の障がいがある方のたくさんの可能性を伸ばすことにつながり、多くの人が「ハッピーな笑顔で」過ごすことにつながっていくのではないかと思います。

【審査員特別賞・ロアツソ熊本賞】

人を想う

湯前町立湯前中学校 一年

岩野<sup>いわの</sup>

一花<sup>いちか</sup>

私の曾祖父は第二次世界大戦に行つて、戦争が終わつた後も捕虜として満州（現在の中国）から、旧ソ連（現在のロシア）のシベリアに連れていかれ、数年間極寒の地で死と隣り合わせの生活をおくつたそうです。

最近「ラーゲリより愛をこめて」という映画を家族で見た時に、両親や祖父が「聞いていた話と同じだ。」と言つて、涙を流していました。私の身近な人にこんな経験をしている人がいるなんて信じられませんでした。戦争とは私にとってそれほど無縁なものだからでした。

私は小さかつたので、直接曾祖父から話を聞いていませんが、シベリアはとても寒く、すぐ隣で凍死する人もいたそうです。食べ物も、黒いパンを一日一切れで、何時間も極寒の中で作業をする。捕虜の人たちは、いつか日本に帰ることだけを夢見て、何年も過ごしてきました。自分が生きること必死で、他の人のことを思いやる行動なんてできなかつたはず。「明日は自分が死ぬかもしれない。」といった、毎日。言葉も通じないシベリアの地で、少しでも意見を言おうとする

と罰があったり、その場で射殺されたりして、とても怖かっただろうと思います。ある日、ソ連兵が撃った銃弾が、曾祖父の頬をかすめ、その銃弾により捕虜仲間が亡くなったその場面を、曾祖父はずっと忘れられなかったそうです。もし、その銃弾が曾祖父に当たっていたら、今私はここに存在さえしないのです。

人を人とも思わない。それが戦争だと私は思います。言葉が通じなくても、相手のことを理解しようと思う心があるのなら、戦争や争いなんて起こらないはずです。しかし、残念なことに、戦争のニュースが毎日のようにテレビから流れてきます。私の周りは平和ですが、今この世界のどこかで、私と同じくらいの年齢の子供たちが、戦争の恐怖から逃げ回っているのです。これが現実です。なぜ戦争はなくならないのでしょうか。たくさんの人が亡くなった辛い戦争の歴史を世界中の人が知っています。国と国が、人と人が、お互いを傷つけ合い、大勢の命を奪っていく。何のためにもこのようなことをするのでしょうか。戦争をすることで得られるものとは何なののでしょうか。

戦争と聞くと、今までは私には関係ない言葉だと思っていました。しかし、この夏、戦争の映画を見て、家族みんなで曾祖父との思い出や戦争について話し合ったことで、戦争というものをずっと身近に感じられるようになりました。私が日常の中で何気なく使っている言葉も、誰かの心を傷つける「武器」になっていくのかもしれないと思います。そんな言葉の武器で誰かが涙を流したり、辛い思いをすることはあつてはならないと思います。戦争も同じで、誰かの大事な人が自分勝手な世の中のせいで命が奪われてしまうこともあつてはならないことです。戦争によって「幸せ」は決して生まれることはありません。

今の私に戦争を止めることはできないけれど、人を思いやり、相手の気持ちを考えてすることは私にもできます。私に大切な家族や仲間がいるように、私の周りの友達にも同じように大切な人がいるのです。だからこそ、普段から友達と接する時にも言葉の武器とならないような温かい言葉を使うことで、お互いに毎日を楽しく、笑って過ごすことができるようにしていき、たくさん幸せを増やしていきたいと思います。

当たり前のように過ごしている今があるのも、人扱いされなくても、奴隷として扱われても、必死に生き抜いてくれた曾祖父たちのおかげだということを忘れないで、平和な毎日が続けていけるよう、私自身を人を大事にして、悲しい世界にならないように生き抜いていきたいと思います。そのため自分にできることは何かと考えた



時、おかしいと感じたことがあれば、自分には関係ないからと見て見ぬふりをせず、声に出しているようになることだと思いました。また、話し合いなどの場では自分の意見を一方的に伝えるだけではなく、相手の意見も尊重し進めることでより平和に物事を解決していこうと思います。

このように、身近なところでできることから始めていくことが平和につながる第一歩であり、人権を大切にすることだと私は考えます。

## 容姿の偏見について感じたこと

菊陽町立菊陽中学校 三年

下瀬<sup>しもせ</sup>

莉子<sup>りこ</sup>

私は小学一年生からバスケットボールをしています。小さい頃は色が白くてぽっぴちやりして髪も長かった為、どこからどう見ても女の子でした。バスケットをする時、学年が上がるにつれてプレーも激しくなり、髪が短い方がいいと思いい、まずは肩のところまで切りました。それでも動きのじやまになると感じる事が多くなり、ショートカットにしました。この時、私の外見が変わり始めました。

私には二つ違いの兄がいます。買い物に行つた時、二人で並んでいると、「ボクたち。」と声を掛けられました。初めて男の子と間違われました。その時は「えっ」という感じでしたが、隣にいた母が「女の子なんですよ。」と店員さんに言いました。スポーツをしている男の子に見えたみたいでした。私はその時は何も思わず「間違われたー」と笑っていました。そこまで短くなかったショートヘアが中学校に入つてからはどんどん短くなつていき、刈り上げるようになっていきました。それがスポーツをする中で一番フィットしていたからです。身長も伸びて筋力もたくさんつきました。

た。見た目で間違われることが中学生になって本当に多くなりました。私は正直どちらでも構いません。嫌だと思つたこともないし、男子と見られてはまずかしいと思つたこともありませぬ。なぜなら、何も知らない他人が「男だ」「女だ」と言つても私には何の關係もないからです。

祖母が私によく言います。「こんなに髪を短くしなくても。」「かわいらしい洋服を着たらいいのに。」と。そんな風に言われることが一番嫌いです。男だから、女だからの時代はもう古いと思います。私はそうしたいと思つてそういう風になっているから「別にいいじゃん。」と返します。見た目は男子でも女子です。でも行儀が悪すぎて親によく注意されます。男になりたいと思つたことはありませんが、何で男に間違われるんだろうと考えたことはありません。私も外見だけで人を判断して、男か女かどっちだろうと思うことがあります。見た目で判断して間違つたこともあります。人にはそれぞれのイメージがあるからだと思います。私が男子に間違われても気にしません。正確に言えば気になりませぬ。どちらでもいいです。

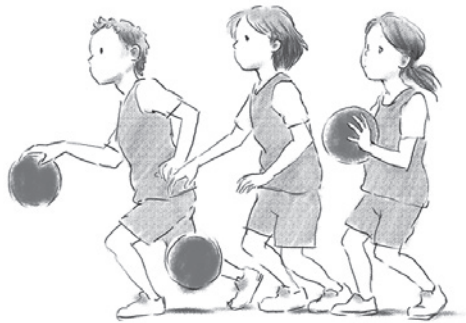
しかし、そうではない人もいることを考えなければいけません。悪気のない一言が誰かを傷つけている可能性があるということを。来年から中学校の制服がスカートとスラックスの両方を選択できるようになります。時代の流れかもしれません、すごくいいことだと思います。スカートは女子、スラックスは男子という固定観念がなくなるからです。でもその反対に男子が選べないのはいないと思ひます。もしかしたら男子でもスカートをはきたい人がいるかもしれないと思ひます。母から中学生の頃の話が聞かれますが、今では信じられないことばかりです。一番分かりやすいのが体操服と水着です。その時にも性に違和感を持つた人はいたはずだけど、「男の子



は男の子らしく」「女の子は女の子らしく」の時代です。私の母もショートヘアで男まさりと言われていたそうです。スカートをはくことが嫌いで普段は、ズボンばかりはいていたそうです。その話を聞いて親子だなと思いました。

性の多様性が認められる時代ですが、そのことだけではなく、人種差別や貧困など様々な差別となる要因があります。気にし過ぎることも差別で、気にしないことも差別。私は人を安易に傷付けたり、不快になるような事を言ったりしないように心がけていきたいです。自分にとつては、どうでもいいことでも、他の人にとつてはそうではないということをお忘れなくしたいです。

自分の思い込みを人に押しつけないことが、それぞれの個性を尊重することにつながります。私は今の自分に自信を持って堂々としていきたいです。



「『一瞬の判断』で差別をしないために」

八代市立第八中学校 二年

春崎菜々子はるさき ななこ

「え!?何、この人!」と皆さんは見た目で人に恐怖心を抱いたり、驚いたりしたことはありませんか?その人を避けるように行動してしまったり、悪口や影口を言ってしまったことはありませんか?私はつい最近、「人の見た目に驚いた」という体験をしました。

今年の夏休みでの出来事です。私は父、母、妹の四人で旅行に出かけ、遊園地に行きました。アトラクションに並ぼうとした時に、私は自分の前に並んでいた男性の『見た目』に驚いてしまいました。私にはその人の後ろ姿しか見ることが出来ませんでした。その男性は火傷をしてしまったのか、首や腕全体が大きくだれていました。私はその人の後ろ姿を見た瞬間、「うわぁ・・・」という驚きにも恐怖心にも似たような感情が湧いてきました。きっと私は、その男性に対して「差別的な感情」を抱いてしまっていたんだと思います。自分がいつも見かける家族や友達の肌を『普通』と感じていたからこそ、男性のただれた肌を「普通じゃない!!」と感じてしまったんだと思います。私は小学校の頃から「いじめや差別は絶対にしてはいけない」と教えられてきました。それ

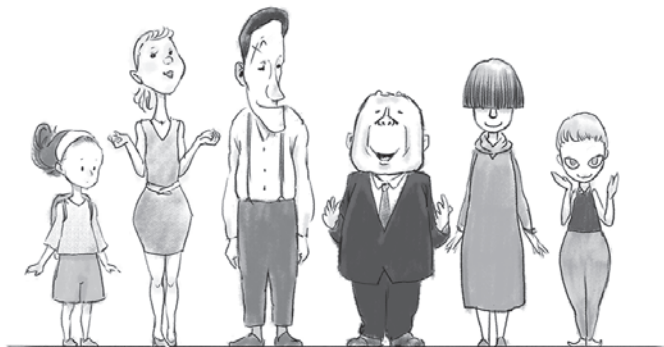
は多くの人が同じだと思えます。それなのに私は、あの一瞬の内に男性を『見た目』で差別してしまいました。

「自分はあの時どうすれば良かったのか」と考えてみました。解決策は浮かんできませんでした。「自分が驚かないようにすればいい。」と考える人もいると思います。ですが、そんなに簡単な事ではありません。人は外見で人を判断しがちなのではないかと思えます。例えば、自分の近くを顔の歪んだ人が通りかかったとします。ほとんどの人は「何、今の人!」と驚いて、その人をジロジロ見てしまったり、逆にその人を避けてしまうと思えます。\*多くの人にとって、「自分と見た目が違う人」を受け入れる事は難しいと思います。実際に私もそうでした。他の人々よりも特徴的な外見を持った人達は、色んな場所で差別などに遭い、辛い思いをする可能性があります。このように\*「他の人と違う特徴的な外見を持っている人達が、学校や職場、恋愛などで苦労すること」を『見た目問題』というそうです。

自分達のこの考え方をどうにかするのは、やはり難しいと思います。人を見た目で判断するのは、ほとんどが「自分達の故意」によるものではなく、「一瞬の判断」によるものだと私は考えているからです。「自分はいじめや差別を絶対にしない。」と心がけている人でも、先ほど例えで話したような場面に遭遇すると、一瞬の内に相手を差別してしまうかもしれません。だから私は、自分の目から入った「視覚情報」で相手の第一印象を決めてしまうのは仕方ない事だと思います。なので、差別や偏見を少しでもしないようにするためには、視覚情報が入ってきた直後が重要だと思えます。人を見た目で判断してしまったら、その後「その人の内面」がどうなのかを考えてみて下

さい。「もしかしたらこの人は社交的な人かもしれない。」「もしかしたらこの人はすごく優しいかもしれない。」という感じに、プラス思考でその人の『内面』を考察してみる癖をつけてみると良いと思います。ことわざには「人は見かけによらぬもの」というものがあります。この言葉をいつも考えながら生きていくと、次第に多くの人を受け入れる事が得意になっていくと思います。人を受け入れられるようになれば、外見が特徴的な人に少し驚いたとしても、避けたりするようなこと無く、接していけると思います。そして、どんな人も受け入れられる『受容性』のある人達が地球上にどんどん増えていくと素敵だと思います。

外見は一人一人が違います。顔立ちが整っている人、肌が綺麗な人、背が高い



人、スタイルがいい人など、世界には様々な人達がいまいます。ですが、事故や障害によつて特徴的な外見を持ったことで、人から差別や偏見を受けて苦しんでいる人達もいます。そのような人達のためにも、私達は色んな人達を受け入れられるように、そして愛せるように、『受容性』と『人間性』を大切にしていかなければなりません。そのように思いやりのある人々が増えていくたびに、社会は良い方向へと進展していくはずです。

\*（日本財団ジャーナル「見た目問題」は「見る目問題」。許容性のある社会が、みんなをもっと生きやすくする）岩井建樹

閲覧日 二〇二三年 八月二二日

## 自分らしく

天草市立天草中学校 三年 森<sup>もり</sup> 百江<sup>ももえ</sup>

小学校に入学してから、私服としてスカートを着たことがない。私服は、専らTシャツにズボンといった格好だ。だから、私はよく「男の子」と間違えられる。そんな時、表面上は平気な振りをしてるが、本当はとても嫌で仕方がない。なぜ、男の子に間違えられるのか、その原因を考えるとき、いくつか原因となることが思い浮かぶ。

一つ目は、容姿だ。服装を含め、髪型は常に短いし、つり目だ。一般的に思い描く女の子といった顔立ちではない。その上、服装もズボンばかりで女の子らしいと言われるものではない。

二つ目は、一人称だ。私は、自分自身のことを「俺」と言う。それは、「私」という口調が、女の子らしい顔立ちでない自分には似合わないと思っっているからだ。だから、周りから言葉遣いを注意されても、素直に直すことができないでいる。

三つ目は、仕草だ。私は、口を開けて豪快に笑うし、一つ一つのことにはリアクションを激しくとってしまう。周りの女子は、そんなことはしない。だから、クラスメイトに「男みたい」と言わ

れることがある。

ただ、今の「男の子」と間違えられる姿は、自分自身が作りあげてきたものだ。だからといって、クラスメイトから「男の子」として扱われることに傷つかないわけではない。本当の自分は、そうじゃないという思いがいつも込み上げてくる。そういう時、思い返すことは幼い頃のことだ。

幼い頃の私は、自由に自分が好きだと思う服を着ていた。ピンクやレースのついた服やスカートなど……。しかし、小学校に入学したある日、家族で服を買いに行くと「まだそんなのを着るの？」という言葉が言われた。

今思い返すと、小学校に入り、外で遊ぶ機会が増えたため、スカートなどのヒラヒラした服装は、活動する時に邪魔になるからだろうと想像できる。だけど、幼かった私は、自分の個性を全否定されたように感じたのだ。そこから、「スカートは似合わない」、「長い髪は似合わない」、「女の子らしい態度は似合わない」と思うようになり、好きなものを好きと言えない自分が出来上がっていったように思う。きっかけは、家族の何気ない一言だったかもしれないが、偏見というフィルター越しに自分を見ているのは、私自身なのだ。

そんな私に、希望を持たせてくれたのは、ある新聞記事だった。そこには、LGBTQに悩む中学生在が、自分自身の悩みについて書いていた。

「周りばかりに変わってもらおうとせず、私も私なりにどうすれば自分の気持ちに素直になれるかよく考えてみる」

その言葉にはつとさせられた。私は、自分の素直な気持ちを周りに伝えることができているのだ

ろうか……。最初から「私のイメージはこうだから」と決めつけて、変わろうとしていなかったのではなにかと気づかされた。LGBTQという社会的にもまだまだ偏見や差別にさらされる問題と向き合う同世代の人がいる中で、自分の固定観念に押しつぶされ、周囲と分かり合う可能性をつぶしている自分を情けなく感じた。それまでの私は、諦めていたのだと思う。周りは理解してくれないと決めつけて、自分自身は変わろうとしていなかった。自分で自分を否定することで、偏見の芽を育てていたのだ。きつと私だけでなく、誰もが自分の中に固定観念を持つていることだろう。それを変えろという訳ではなく、自分自身の物事の考え方を柔軟にすることが大切だと伝えてくれた、その人のことを私は尊敬している。

だから、私はまず自分で自分を肯定したい。「好きなものを好き」という勇気を持ちたい。「嫌なことを嫌」と言う勇気を持ちたい。多様性が叫ばれる昨今、どれだけの人が自分を自分として表現できているだろうか。私のように、自分の個性を認められず、自分自身を偽りながら生活している人もいるのではないだろうか。まずは、自分が自分の個性を認めること、それが自分らしく生きる第一歩だと考える。

SNSを初め、互いの表情が見えない現代のコミュニケーションの中、これからも、周りの何気ない一言に傷つくこともあるだろう。それでも、「自分は自分」、「あなたはあなた」と言える強さを持つことが私の目標だ。それが、きつと差別や偏見をなくす一歩になると信じている。





## 思いやり

宇土市立鶴城中学校 三年

井本 いのもと

莉未 りみ

私には、認知症のひいおばあちゃんがいる。今は別に住んでいるが前までは一緒に住んでいた。私はひいおばあちゃんが苦手だった。苦手というより嫌いだっただけ。なぜなら、何度も同じ事をくり返し聞いてくるからだ。最初に聞かれたことは優しく返している。だが何度も聞かれると普段からあまり怒らない私でも頭にきてしまいつい強く言ってしまったことが何度もあった。しまいには、逃げるようにひいおばあちゃんといった部屋から出て行ってしまった。

そんなことがあった翌日に、認知症サポーターの方々が学校に来てくださり講話があった。私は、認知症サポーターの方が「家に認知症の方が家にいらっしゃる方。」と質問された。私は一つの疑問をいただきながら手を挙げた。「どうしておじいちゃんおばあちゃんじゃなく認知症の方が家にいらっしゃる人だったのだろう。」という疑問だった。この時の私は認知症のことを理解していたつもりでいたが、サポーターの方々のお話を聞いて知らなかったことがたくさんあることに気がついた。

まず、認知症の方は強く言われると傷付くということだ。確かに私達人間は、怒られると落ち込んでしまう。だが私はそのようなことをほぼ毎日といっていいほどひいおばあちゃんのことを怒っていた。このことは、私以外の家族も同じ事をしていた。その時のひいおばあちゃんの思っていたこと「辛い」の一言にたどりついた。でも、ひいおばあちゃんは私の考えていたこの言葉の他に、もつと言葉があつたはず。そして、私はふと思った。「私がしていることは、相手の立場に立つて相手の気持ちを考えただろうか。認知症のことを知ったつもりで知っていなかった。これは誰にでも平等に接していなかったのではないか。」と。

次に話されたのは、認知症は年齢関係ないことだった。私が一番気になっていたことだ。サポーターの方が一つの動画を見せてくださった。その動画は三十代で認知症になった方の動画だった。動画には、若くして認知症を患い辛かったこと悲しかったことなどをうったえている動画だった。いや人の姿だった。私はその人が言った最後の言葉が今でも心に残っている。それは「私達も一人の人間です。認知症だから、障害を持つているからと言って一人にしている存在ではありません。相手を思いやる行動をしてほしいと思います。」と言う言葉だった。この長いようで短い言葉はたくさんさんの願いや思いでいっぱいのものであった。だから私はその言葉一言一言の重さに何か不思議な力を感じていた。そして私は気がついた。自分に足りなかった気持ちは「思いやり」だということに。

このような経験を通したことで私が変われたと思ったことは誰にでも平等に接することだ。私はその講話があつたその日からひいおばあちゃんへの接し方を変えた。前よりも優しくしゃべったり

することを心がけた。そうしたら心なしかひいおばあちゃんがかうれしそうに見えた。その姿を見て私もうれしく思い心が温かくなった。

お互いを知るための第一歩として「思いやりの心」を大切にしたいと思う。



## 弟がくれたもの

合志市立合志楓の森中学校 三年

安東<sup>あんどう</sup>

美波<sup>みなみ</sup>

平成二十八年、四月に弟が生まれた。私が当時、小学二年生の頃だった。手足が小さく眠たような顔が、かわいくてしょうがなかった。でも幼かった私はまだ知らなかった。弟が「障がい者」であることを。

弟はダウン症という障がいを持っている。知的障がいの一つだ。周りの子より成長のスピードがゆっくりである。私はいつしか、「弟は周りとは少し違うから」と、周りと弟を勝手に比べ、心のどこかで、差別心を持つようになっていた。でもある日、その差別心を弟が変えてくれた出来事があった。

中学二年生の春だった。外は涼しく、少し肌寒いぐらいの気温だった。弟が散歩に行きたいと言うから、三十分ぐらい、近所の周りをグルグル歩いた。曲がり角をちょうど曲がったぐらいだった。前方から、グラサンをかけ、全身真黒な男性が歩いてきた。少し怖かった。私はこのとき、すごくあいさつをしようか迷った。もし、怖い人だったら嫌だし、どうしようという気持ちが大き

かった。その時だった。弟が元気よく「こんにちは。」と、その男性に言ったのだ。弟よりも、倍ぐらいの身長で怖そうな人にあいさつできる勇氣なんてどこからきたんだろうと思った。するとその男性はグラサンをはずして笑顔で「こんにちは。お姉ちゃんとお散歩いいね。」と手を振ってくれた。弟は笑顔でうなずき、バイバイと、手を振り返していた。私はこの時、あの男性を見た目で判断してしまっていたと気づいた。「怖そうだからあいさつをしない」これも一つの小さな差別心だった。もし弟があいさつをしなければ、私は勝手に、あの男性のイメージを作りあげていたのだろう。よくあることだ。知らない相手を勝手に評価し、自分の中でイメージすることは。例えば、「あの人はおもしろくなさそうだから話さない」や「あの人は自分と合わなさそうだから仲良くしない」といった、まだよく知らない相手を見た目で判断してしまう。これは私だけではなく、みんな同じではないだろうか。私はこのことがあつてから、人を見た目で判断しないように心がけている。

今の世界、「見た目」というものがとても重視されている。それはとても怖いことだ。周りの人と見た目が少し違うだけでも、すぐにいろいろ言われてしまう。良いことだけではないだろう。これは障がい者だけのことではない。私は今、全世界の人に「人は見た目ではなく中身だ」と伝えたい。そして、心のどこかに隠れている小さな差別心を一人でも多くなくなることを願っている。

弟は七才になった。小学一年生だ。学校の先生も、クラスのみんなも、弟を一人の人として見ていてくれる。平和だなと思う。正直、弟が入学する前、いじめられたらどうしようという不安が大きかった。でも今は、その不安をふき飛ばすぐらい、毎日楽しそうに生活している。弟と過ごす、

なんともない日常は、私にとってすごく大切な宝物だ。あたり前の日常だからこそ、うれしいと思える。いつか「障がい者」や「差別」という言葉が消える日が来るのだろうか。そんな日が来たら、弟だけでなく、差別で苦しむ人たちが幸せに生きることのできる世界にしたい。

弟がくれたもの。それは小さなことだったかもしれない。だけど未来につながる大きな希望であることを信じ続けたい。弟が私にくれた分、私は弟に夢と希望を与え続けたい。たくさんの思いを伝え続けたい。弟がくれたものを大事に、大切にもって生きようと思った。



## 負った心の傷の深さと小さな幸せ

熊本県立八代中学校 一年

澤村さわむら

実空みそら

小学六年生のある日の放課後、いつものように友達と学校から帰ろうとしていた。靴箱に向かうと、友達の靴がなかった。その時はどこかに間違つて置いたのだと思っていた。しかし、全ての靴箱を見たが友達の靴は見つからなかった。それを聞きつけたクラスメイトが何人か来てくれて、みんなで一緒に探すことになった。何十分か探したが見つからなかった。

みんなでもう一度靴箱を探していた時、無くなった靴の持ち主である友達が「一階の教室のベランダに置いていたかもしれない。」と言い、一人でベランダに探しに行った。みんなはまだ靴箱やその周辺のありそうなところを探していた。私は一人でベランダに探しに行った友達が心配になってきた。私は「ちよつと○○ちゃんのところに行つてくるね。」と言い、友達のところへ走つて行った。その教室には、動かせるホワイトボードなどがあり友達の姿は見えなかった。「○○ちゃん。」と名前を呼びながら少し歩くと、その子の持ち物が乱雑に床に落ちていた。相当急いで靴を探していたのだと思った。私も急いで名前を呼びながら教室の中を進むと、ベランダに出るドアの前に友



達は座っていた。友達の周りの空気には、もやがかかっていたように感じられた。私の足は友達の方へと走り出していた。私はその子の横に座り、ただただ背中をさすってあげた。少しの間、友達の顔を見ることができなかつた。

顔を見ると、辛い思いをしていることが、涙や濡れた手からも伝わってきた。私は、励まし、話を少し聞いて側にいてあげることしかできなかつた。もつと早くから話を聞いてあげるべきだったと、私も涙がこぼれた。

しばらくして、友達の涙は少なくなり落ち着いたようだった。私はよかつた、と思つたが、少しでもその友達の助けになることができたのだろうか。

靴を探していたみんなが「おーい、○○ちゃんの靴これじゃない？」と言つてきた。どこにあつたのかも聞いたが、見つかつてよかつた、とほつとする気持ちがいっぱいで、もう覚えてはいない。友達もうれしかつたのか、元氣になった。みんなは、「よかつたね、○○ちゃん。」「見つかつてよかつた。」と口々に言葉をかけていた。「ごめんね、ありがとう、本当にありがとう。」と、笑顔で話す友達の姿があつた。私もいい気分が帰ることができた。

私はその日の夜、一日をふり返つた時、考えることがいくつもあつた。無くなつた靴をみんなが一生懸命に探していたこと、見つかるまで誰も文句も言わずに帰らなかつたこと、見つかつた時に、全員が本人の気持ちになつて喜んでとても心が温かくなつたことなどである。

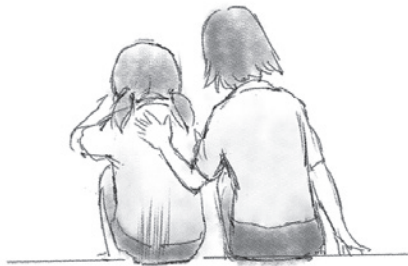
でも、探してくれる人がいなくなつたら友達はどうしていただろうと考えると、背筋が凍る思いである。過去にいじめられていた友達は、周りの人に助けを求めるのはとても怖いと感じるだろう

し、勇気がいることだったと思う。みんなが良い人ではないこともある。でも友達の味方はたくさんいて、私も友達がいるからこそ楽しめることがある。

私は、いじめがどれほど怖いものか知っている。

一度いじめられると、その子は人への信頼を失ってしまい、逆に恐怖を感じる。本当は明るい考えになるはずなのに、そうではなくなってしまうたり、楽しいことなのに、深く考えて楽しいと感じられなくなったりする。そのように心につけられた傷を少しでも癒せるように、その友達の側にいてあげたかったのだと私は思う。

友達の大切さや、友達がいることの幸せについて考えた。私は、小学校生活の中で友達がいることで救われたことが何度もあった。だからこそ、自分を支えてくれて、救ってくれる友達を大切にしたいと思う。そして、そのように思わせてくれる友達がいるという小さな幸せを感じてこれからも生きていきたい。



## 奨励賞一覧

私の名前で呼んでください。

「最強のパワー」

健常者と障がい者が共に想いやる未来

性別の当たり前

SNSとの関わり方

すべての人が職業に誇りを持つために

生きる

僕の大切な人

心のケア

生きている誰もが持つ権利

大切な「家族」

人の幸せとは

今こそ祖母へありがとう

ルーテル学院中学校 三年 嶺山 桃

熊本市立富合中学校 二年 鈴木 源太

熊本県立宇土中学校 一年 平松 希愛

宇城市立松橋中学校 二年 市村 羽未

山鹿市立山鹿中学校 二年 池田 知穂

山鹿市立菊鹿中学校 二年 牛島 いずみ

菊池市立菊池南中学校 二年 富田 哉翔

菊陽町立菊陽中学校 三年 今泉 颯斗

南小国町立南小国中学校 三年 下城 叶愛

熊本県立八代中学校 三年 福山 一華

人吉市立第一中学校 三年 中村 莉緒

人吉市立第一中学校 二年 松岡 隼史

天草市立五和中学校 一年 中村 夏粹

## お互いの違いや個性を認め合う

熊本県人権擁護委員連合会 会長 野口 泰喜

本年度の第四十二回全国中学生人権作文コンテスト熊本県大会には、全体の七八・一％に当たる一五〇校から、二万五五六三人の作文が寄せられました。応募者は前年から五四三人増えました。応募された全ての中学生、ご協力をいただきました学校関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。

コンテストは、日常生活や学校での体験に基づいた身近な人権問題を作文にすることで、人権尊重の重要性に気付き、豊かな人権感覚を身に付けてもらうことを目的にしています。

本年度は、自身の曾祖父父母や祖父父母をテーマにした作文が多いのが特徴でした。高齢の家族に対する家族愛や認知症を患った家族の行動を理解しようとするなど、人権思想の基本となる「思いやり」や「寄り添いの心」を実践している作者の姿が伝わってきました。

最終審査の対象となった二十五編はテーマ別に、障がいのある人に関するものが最多の七編、高齢者に関するものが六編、性的マイノリティーに関するものが三編など。いずれも中学生らしい感性と自由な視点で文章が構成されていました。

最優秀賞の熊本地方法務局長賞に選ばれた猿本輝凜さんの「ずっと言えなかつたこと」は、四歳で発症した病気があつて体育の授業を見学していた時、小学校の頃からの友人が持病を周りに伝えてくれたことがきっかけとなり、担任の先生に相談し、勇気を出してクラスに全てを打ち明けることにしました。

猿本さんの不安な気持ちと対照的に級友の視線は温かく、優しく受け入れてくれた様子が目に浮かびます。障がいを持つ人に対し、誰かと比べずに理解し認め合う心の必要性を自覚し、一步を踏み出す勇気を振り絞つた本人の成長を実感できる作品でした。

もう一つの最優秀賞、熊本県人権擁護委員連合会長賞となつた坂本史子さんの「普通とはなんだと思いますか？」は、九歳離れた弟の障がいに関し、自分の経験から「ふつう」という考え方に疑問を持ち、「ふつうなどない。みんな一人一人が特別」と力強く主張されました。個性を尊重しながら共生する社会の実現を求めた内容でもあります。

作品では「学生である私が、思う存分に自分の思っていることを書けるのはこの作文です」とも述べられました。これからも、多くの中学生が作文で本音を語れるコンテストにしていければ幸いです。

## 第42回全国中学生人権作文コンテスト熊本県大会応募校一覧

熊本市立出水中学校	熊本県立玉名高等学校附属中学校	八代市立第六中学校
熊本市立西山中学校	玉名市立玉名中学校	八代市立第七中学校
熊本市立白川中学校	玉名市立玉南中学校	八代市立第八中学校
ルーテル学院中学校	玉名市立玉陵中学校	八代市立日奈久中学校
熊本市立藤園中学校	玉名市立有明中学校	八代市立二見中学校
熊本市立帯山中学校	玉名市立岱明中学校	八代市立坂本中学校
真和中学校	玉名市立天水中学校	八代市立千丁中学校
熊本市立江南中学校	荒尾市立荒尾海陽中学校	八代市立鏡中学校
熊本市立湖東中学校	荒尾市立荒尾第三中学校	八代市立東陽中学校
熊本市立錦ヶ丘中学校	荒尾市立荒尾第四中学校	八代市立泉中学校
熊本市立東野中学校	長洲町立腹栄中学校	水川町立竜北中学校
熊本市立東町中学校	長洲町立長洲中学校	水川町及び八代市中学校組合立水川中学校
熊本市立東部中学校	南関町立南関中学校	水俣市立水俣第一中学校
熊本市立西原中学校	和水町立菊水中学校	水俣市立水俣第二中学校
熊本市立二岡中学校	和水町立三加和中学校	水俣市立袋中学校
熊本市立長嶺中学校	玉東町立玉東中学校	水俣市立緑東中学校
熊本市立三和中学校	山鹿市立山鹿中学校	芦北町立田浦中学校
熊本市立井芹中学校	山鹿市立米野岳中学校	芦北町立佐敷中学校
熊本市立日吉中学校	山鹿市立菊鹿中学校	芦北町立湯浦中学校
熊本市立富合中学校	山鹿市立鹿本中学校	津奈木町立津奈木中学校
熊本市立下益城城南中学校	山鹿市立鹿北中学校	人吉市立第一中学校
熊本市立砲田中学校	菊池市立菊池北中学校	菊池市立第二中学校
熊本市立北部中学校	菊池市立菊池南中学校	球磨郡錦町立錦中学校
熊本市立楠中学校	菊池市立七城中学校	球磨郡あさぎり町立あさぎり中学校
熊本市立武蔵中学校	菊池市立旭志中学校	球磨郡多良木町立多良木中学校
熊本市立龍田中学校	菊池市立泗水中学校	球磨郡湯前町立湯前中学校
熊本市立清水中学校	阿蘇市立一の宮中学校	球磨郡水上村立水上学園
熊本市立鹿南中学校	阿蘇市立阿蘇中学校	球磨郡相良村立相良中学校
熊本市立五霊中学校	阿蘇市立波野中学校	球磨郡五木村立五木中学校
熊本市立植木北中学校	小国町立小国中学校	球磨郡山江村立山江中学校
御船町立御船中学校	南小国町立南小国中学校	球磨郡球磨村立球磨中学校
嘉島町立嘉島中学校	産山村立産山学園	天草市立本渡中学校
益城町立木山中学校	高森町立高森東学園義務教育学校	天草市立稜南中学校
益城町立益城中学校	高森町立高森中学校	天草市立本渡東中学校
甲佐町立甲佐中学校	南阿蘇村立南阿蘇中学校	天草市立牛深中学校
山都町立清和中学校	合志市立合志中学校	天草市立牛深東中学校
山都町立蘇陽中学校	合志市立西合志中学校	天草市立倉岳中学校
山都町立矢部中学校	合志市立西合志南中学校	天草市立御所浦中学校
宇土市立鶴城中学校	合志市立合志風の森中学校	天草市立新和中学校
宇土市立住吉中学校	大津町立大津中学校	天草市立栖本中学校
宇土市立綱田中学校	大津町立大津北中学校	天草市立河浦中学校
熊本県立宇土中学校	菊陽町立菊陽中学校	天草市立有明中学校
宇城市立三角中学校	菊陽町立武蔵ヶ丘中学校	天草市立五和中学校
宇城市立不知火中学校	西原村立西原中学校	天草市立天草中学校
宇城市立松橋中学校	熊本県立八代中学校	上天草市立松島中学校
宇城市立小川中学校	八代市立第一中学校	上天草市立大矢野中学校
宇城市立豊野中学校	八代市立第二中学校	上天草市立湯島中学校
美里町立中央中学校	八代市立第三中学校	上天草市立龍ヶ岳中学校
美里町立砥用中学校	八代市立第四中学校	上天草市立姫戸中学校
熊本県立松橋西支援学校	八代市立第五中学校	苓北町立苓北中学校

## 人権擁護委員を知っていますか？

国民の人権擁護に携わる国の行政機関としての法務局と、法務大臣から委嘱を受けた民間のボランティアである「人権擁護委員」とが、法務省の人権擁護機関として、人権相談や人権啓発など、人権擁護のための活動を行っています。熊本県内では、現在、約330名の人権擁護委員が活躍しています。

人権擁護委員は、あなたの街の身近な相談パートナーです。相談は無料で、相談内容についての秘密は厳守します。困ったことや思い悩んだりすることがあったら、気軽に相談してください。

## 人権イメージキャラクター

法務省の人権擁護機関及び人権啓発活動ネットワーク協議会が行う啓発活動について、活動の統一性を持たせるとともに、人権擁護活動についての親近感を深め、啓発広報活動をより効果的にすることを目的として、平成13年8月に人権イメージキャラクター「人KENまもる君」が、同14年3月には「人KENあゆみちゃん」が制定されました。

本イメージキャラクターは、漫画家やなせたかし氏の作成によるものです。人権啓発イベントを始め、様々な人権啓発の場面で活躍しています。



人権イメージキャラクター  
人KENまもる君



人権イメージキャラクター  
人KENあゆみちゃん

あなたの街の相談パートナー

# 人権擁護委員

ひとりで悩まずご相談ください！  
秘密は守ります。相談は無料です。

人権研修を無料で行います。  
申し込みは最寄りの法務局まで。

人権イメージキャラクター  
人権はもてるぞ 人権野郎の仲間たち



## 人権相談

法務局などでは、地域の皆さんから、いじめ・差別などの人権に関する相談に応じ、問題解決のお手伝いをします。



## 人権啓発

地域の皆さん一人一人の人権意識を高め、人権への理解を深めてもらうために、様々な活動を行っています。

- 差別を受けた
- 暴行・虐待を受けた
- セクハラ・パワハラを受けた
- いじめ・体罰を受けた
- インターネット上の誹謗中傷など



## 調査救済

「人権を侵害された」という被害者からの申告を受け、法務局職員と協力して調査を行います。

## 6月1日は人権擁護委員の日です。

法務省人権擁護局  
公式エックス



@MOJ\_JINKEN



法務省人権擁護局  
公式フェイスブック



HumanRightsBureau.MOJ



法務省人権擁護局  
公式LINE



@JINKEN01





## こどもの人権SOSミニレター

法務省の人権擁護機関では、全国の小・中学生に「こどもの人権SOSミニレター」用紙を配布して、法務局職員や人権擁護委員が手紙による相談に応じています。

家族や学校の先生など誰にも相談できず、一人悩み苦しんでいる子どもたちのSOSの発信を見逃すことなく、問題解決に向けて取り組みます。

相談内容の秘密は守りますから、信頼して、切実な思いを伝えてください。

学校の先生方におかれましても、児童・生徒の皆さんに対し、是非積極的な利用を促してください。



中学生用

# こどもの人権 SOS ミニレター

悩んでいるあなたへ。  
私たちが必ず力になります。  
相談内容の秘密は守ります。

入場（メール）ボタンマーク  
（SMS対応不可）

入場（メール）ボタンマーク  
（SMS対応不可）

### 「こどもの人権SOSミニレター」について

この裏面に相談したいことを書いて送ってください。切手は不要です。  
あなたが悩んだり困ったりしていることなどについて書かれた手紙を、人権擁護委員が詳しい人が読んで、手紙や電話でお返事します。相談内容や個人情報を秘密に守りますので、安心して相談してください。お返事が届いていることもお知らせください。

※相談には、Aさんの人権を守ってくれる人権擁護委員や法務局職員がいます。相談内容によっては、関係機関とともに対応する場合もあります。

**人権ってなに？**  
人権とは一人ひとりが人らしく生きるための権利です。人は生まれたときから、誰もがこの権利を持つています。国や文化によっても守られる権利が異なります。また、大人の権利と子どもの権利は異なります。こどもたちは、私たちが法務省の人権擁護機関は、Aさんの人権を守る仕事をしています。

この手紙には、SOSを印刷して郵送し、メールで印刷して送ります。  
UniVoiceアプリで送信、またはお返事を待つことができる印刷版も郵送することができます。

東京法務局・東京都人権擁護委員連合会



あなたのことを教えてください。		性別
名前		
学校名	年齢	
送事の方法がよいですか？ ※手紙がよい <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 自由 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ※電話がよい(お電話できるのは平日午前9時から午後5時15分までです) □日中の携帯電話(メールでは送信できません) □自由 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
郵便局郵便物の利用や電話受付等について教えてください。		
〒	番 電 話 ( )	（ここに住所を書かないでください）
住所		

**送っていること、悩んでいることは？**

いじめのこと  いじめ以外の学校のこと  家庭のこと  その他

※、悩んでいること、悩んでいることをごちから書いてください(いつ、だれに、何をされましたか?)。

手紙に書いた内容をありがとうございます。

<input type="checkbox"/> 家 族：誰が? ( )	<input type="checkbox"/> 先生 <input type="checkbox"/> 友達
<input type="checkbox"/> その他：誰が? ( )	<input type="checkbox"/> 誰にもない

書ききれないときは別の紙に書いて一緒に送ってください。

## 熊本地方務局・熊本県人権擁護委員連合会の主な取組

人権尊重意識の向上のため、工夫を凝らした様々な人権擁護活動に取り組んでいます。

### 人権相談



### ハンセン病問題啓発パネル展



熊本地方務局ロビー

### 人権擁護委員の日



くまもと人権フェスタ



八代市役所・八代市立図書館



菊池市 啓発物品の配布



南阿蘇村LOOP

## 人権週間



かみましき人権フェスタ2023



うきし人権フェスタ



和水町人権の集い



天草市 啓発物品の配布

ハッピースマイルアートギャラリー（熊本市）



人権川柳（人吉市・球磨郡）



## 人権教室・人権研修

児童生徒、企業の方々などを対象に、人権擁護委員や法務局職員が学校や職場等に出向いて「人権教室」、「人権研修」を実施しています。



山鹿市立菊鹿小学校



宇城市立豊野中学校



菊池市立花房小学校



高田あけぼの保育園



芦北町立田浦中学校



美里町立美里中央小学校



玉名市はつらつシニア教室



宇城市商工会



天草市立倉岳小学校



美里町民生委員



## スポーツ組織と連携した取組

いじめのない明るい社会を築くため、Jリーグサッカーチーム「ロアッソ熊本」、Bリーグプロバスケットボールチーム「熊本ヴォルターズ」及び関係自治体と連携して、各種人権啓発活動を実施しています。



ロアッソ熊本



熊本ヴォルターズ



熊本ヴォルターズふれあい人権教室



上天草市立大矢野中学校



高森町立高森中学校



和水町立三加和中学校

## 人権の花運動

人権の花運動は、学校に配布した花の種子、球根、苗等をこどもたちが協力して育てることにより、生命の尊さを実感し、その中で、豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を体得することを目的とした人権啓発活動であり、主に小学生を対象に、昭和57年度から実施しています。

令和5年度は、県内の18の学校において実施しました。

熊本市立大江小学校



熊本市立泉ヶ丘小学校



熊本市立花園小学校



熊本市立飽田西小学校



熊本市立龍田西小学校





御船町立小坂小学校



宇土市立走瀉小学校



和水町立菊水小学校



山鹿市立菊鹿小学校



荒尾市立荒尾第一小学校



菊陽町立菊陽南小学校



南小国町立市原小学校

芦北町立内野小学校



八代市立千丁小学校



人吉市立東間小学校



球磨村立渡小学校



上天草市立姫戸小学校



天草市立本渡東小学校



便利なインターネットも  
使い次第で思わぬトラブルが…

正しいルールと知識を身に付け、  
人権尊重意識をもって、インターネットを利用しましょう!



## 普段のインターネットの使い方を 振り返ってみよう!

Check!

- SNS に投稿するとき、普段、人と話すときよりも、  
つい強い口調になる。
- グループで話すとき、みんなで一人をからかうことがある。
- 他の人に対する批判や自分の意見をよく書き込んでいる。
- 面白いと思った投稿や共感できる投稿を見つけたら、  
すぐに拡散している。
- 自分や他の人が写った写真や動画を日常的に投稿している。
- 自宅や学校、よく行く場所で撮った写真や動画を日常的に  
投稿している。
- 他の人が投稿した写真や動画を投稿者に確認せず他の SNS に  
投稿している。
- 冗談のつもりで、他の人やお店に関するうそや大きな表現を  
含んだ投稿をしたことがある。
- インターネットで知り合った人に、自分の写真を送ったり、  
直接会ったりしたことがある。



# ネット被害から自分を守るために

正しい知識を身につけ、自分で自分の身を守りましょう。

これまで取り上げてきたトラブル事例から振り返ってみましょう。

- SNS の使い方など、インターネット上でのやり取りについて、日ごろから家族や友人と話し合っておきましょう。

- ネットいじめにあったときは、一人で悩まないで、信頼できる人に相談しましょう。



- 悪口や差別的な内容の投稿に対しては、コメントや拡散をしないようにしましょう。



- どんなに仲良しでも、自分の裸の写真などを送らないようにしましょう。

- 自分の投稿が、意図していないところへ広がる危険があることを理解し、安易に写真や個人情報に分かるような投稿をしないようにしましょう。



- インターネット上で知り合った人と会うときは、トラブルに巻き込まれるかもしれないこと、犯罪の被害に遭うかもしれないことを十分に考えましょう。



インターネット上で発信をしたり、他人の投稿をシェアする前に、それが誰かを傷つけたり、自分の身を危険にさらしたりする可能性がないかを、注意深く考えましょう。

# ネットで相手を傷つけないために

ネット上の書き込み、情報発信には責任が伴います。

これまで取り上げてきたトラブル事例から振り返ってみましょう。

- 自分は軽い気持ちであっても、相手を深く傷つける可能性があることを理解し、相手の立場に立ち、考えてから発信するようにしましょう。

- 本人の許可なく、他人の写真や個人情報を投稿したり、書き込みを他の場所に転載したりしないようにしましょう。



- 誰かに対する意見や感想を投稿するときは、誹謗中傷につながる内容になっていないかどうかを十分に考えましょう。

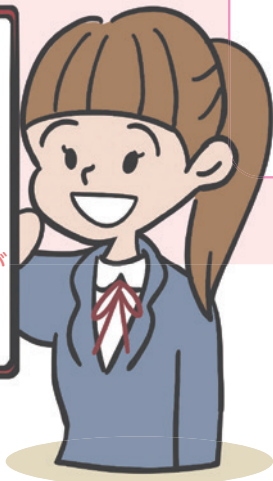


- 誰かのメッセージを見て嫌な気持ちになったとき、すぐに相手に感情をぶつけるのではなく、一呼吸して落ち着いてから、相手の意図を確認するようにしましょう。



- 他人が発信した情報を再投稿・拡散する前に、その情報が正しいかどうか、他人の不利益にならないかどうかを十分に考えましょう。

インターネット上でも実生活でも、互いを思いやる必要があります。誰もが楽しくインターネットを利用できるよう、私たち一人ひとりが心がけて行動しましょう。



令和6年度



人権イメージキャラクター  
人KENまもる君

全国中学生  
人権作文  
コンテスト



人権イメージキャラクター  
人KENあゆみちゃん

募集のお知らせ

あなたの日常生活の中で起こっている出来事について

「人権」という心の眼を通して考えてみませんか？

募集に必要なものは、原稿用紙、筆記用具、

そしてあなたのハートだけです！

詳しい内容は、夏休み前までに各中学校にお知らせいたします。



過去の中央大会入賞作品はこちらから

<https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken111.html>

第41回全国中学生人権作文コンテスト

熊本県大会入賞作品はこちらから

<https://houmukyoku.moj.go.jp/kumamoto/content/001386693.pdf>

素敵な作品との  
出会いがあります！

## 第42回全国中学生人権作文コンテスト熊本県大会作文集

令和6年1月印刷

令和6年1月発行

発行者 熊 本 地 方 法 務 局

熊本県人権擁護委員連合会

**禁無断転載**

本作文集の作品を教材等に使用される場合は、下記にご連絡ください。

〒862-0971 熊本市中央区大江3丁目1番53号 熊本第二合同庁舎  
熊本地方方法務局人権擁護課 TEL 096(364)2145 (代表)

# 人権相談所

みなさんが、これは人権問題ではないだろうかと感じたこと、困りごとや心配ごとがありましたら気軽にご相談ください。

相談は無料で、秘密は固く守られます。

## ○常設相談所

月曜日から金曜日まで（休日・祭日を除く）

午前8時30分～午後5時15分



人権イメージキャラクター  
人KENあゆみちゃん

庁名	電話番号
熊本地方務局 人権擁護課	096 (364) 2145
宇土支局	0964 (22) 0320
玉名支局	0968 (72) 2347
山鹿支局	0968 (44) 2411
阿蘇大津支局	096 (293) 2272
八代支局	0965 (32) 2654
人吉支局	0966 (22) 3393
天草支局	0969 (22) 2467

**みんなの人権 110 番**  
(全国共通人権相談ダイヤル)

ゼロ ゼロ みんなのひやくとうばん  
 **0570-003-110**

**女性の人権ホットライン**

ゼロ ナナ ゼロのハートライン  
 **0570-070-810**

**こどもの人権110番**  
(通話料無料)

ゼロ ゼロ ななのひやくとうばん  
 **0120-007-110**

**インターネット人権相談受付窓口** (24時間受付)

パソコン・携帯電話共通 <https://www.jinken.go.jp/>

\* 法務省のホームページでも相談を受け付けています。

小学生、中学生の皆さんは、「こどもの人権SOSミニレター」、  
「こどもの人権SOS-eメール」(<https://www.jinken.go.jp/kodomo>)でも相談できますよ。



**SNS (LINE) による人権相談**

アカウント名: 「SNS人権相談」

検索ID: @snsjinkensoudan

友だち追加は  
こちらから!

